

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

|                |             |     |                |
|----------------|-------------|-----|----------------|
| ○事業所名          | GrabityLiFE |     |                |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年 1月 1日  |     | ～ 令和7年 12月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)      | 17人 | (回答者数) 9人      |
| ○従業者評価実施期間     | 令和7年 1月 1日  |     | ～ 令和7年 12月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)      | 2人  | (回答者数) 2人      |
| ○訪問先施設評価実施期間   | 令和7年 1月 1日  |     | ～ 令和7年 12月 31日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数  | (対象数)       | 8校  | (回答数) 8校       |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和8年 2月 10日 |     |                |

○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること         | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等   |
|---|--|---|--|
| 1 | 訪問先事業所との連携力や信頼感が強くより強固な連携が取れていると思われる。              | 訪問先事業所との関係づくりを重視し、日頃から丁寧な情報共有や相談を行うことで、相互に意見を出し合える関係性の構築に努めている。<br>また、訪問時には子どもの様子だけでなく、現場の状況や職員の思いにも配慮し、一方的な助言にならないよう意識した関わりを行っていることで、継続的かつ信頼に基づいた連携につながっている。 | 今後は、訪問先事業所との連携内容や支援の経過をより整理・共有できる仕組みづくりを進め、支援の継続性や一貫性の向上を図っていく。<br>あわせて、訪問支援員間での事例共有や振り返りの機会を設けることで、連携の質をさらに高め、訪問先事業所にとってより相談しやすい支援体制の構築を目指していく。 |
| 2 | 保育所等訪問支援で感じた児童の姿や学校での様子を支援スタッフに共有し事業所での支援に繋げられている。 | 保育所等訪問支援で把握した学校や園の様子について、訪問後に支援スタッフへ共有を行い、事業所内での関わり方や支援内容に反映できるよう努めている。<br>環境によって異なる児童の姿を多面的に捉えることで、事業所内においてもより本人の実態に即した支援が行えるよう意識している。                       | 今後は、訪問支援で得られた情報の共有方法や記録の整理を工夫し、より具体的に支援内容へ落とし込める体制づくりを進めていく。<br>また、事業所内での支援結果を訪問支援へフィードバックする機会を増やし、双方向の情報共有を通して、より一貫性のある支援の実現を目指していく。            |
| 3 | ご利用者様の満足度やポジティブなご意見が多い。                            | ご利用者様一人ひとりの状況や思いを丁寧に把握し、日々の関わりや支援内容に反映することを意識している。<br>また、保護者や関係機関とのコミュニケーションを大切に、相談しやすい雰囲気づくりに努めることで、安心してサービスを利用していただけの関係性の構築につながっている。                        | 今後は、ご利用者様からいただくご意見やご要望をより体系的に振り返り、支援内容や事業所運営の改善に活かしていく。<br>あわせて、満足度の高さに甘んじることなく、サービスの質向上に向けた振り返りや検討を継続し、より安心感と納得感のある支援の提供を目指していく。                |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|--|---|
| 1 | 保育所等訪問支援としてどのような活動や支援を行っているか不明瞭な部分がある。     | 保育所等訪問支援は、訪問先や児童の状況に応じて柔軟に支援を行っているため、活動内容や支援の意図が外部から見えにくくなっている面があると考えられる。<br>また、支援内容の整理や発信が十分に行き届いておらず、関係機関や保護者に対して具体的な支援の姿が伝わりにくくなっていることが要因の一つと捉えている。 | 今後は、保育所等訪問支援で行っている支援内容や役割について、資料の作成や説明の機会を通して分かりやすく伝える工夫を行っていく。<br>あわせて、SNS等を活用し、個人情報に十分配慮したうえで、保育所等訪問支援の取り組みや支援の考え方を発信することで、関係機関や保護者に対して支援内容への理解を深めてもらえるよう努めていく。<br>また、事業所内で支援の目的や関わり方を整理・共有し、共通認識を持ったうえで支援を行うことで、より一貫性と分かりやすさのある訪問支援の実施を目指していく。 |
| 2 | 事業所内で完結する部分が多く地域との交流が不足している。               | これまでは、利用児童一人ひとりに合わせた支援を丁寧に行うことを重視してきたため、支援や活動が事業所内で完結する場面が多くなっていったと考えている。<br>その結果、地域資源や他機関とのつながりを意識した取り組みが十分に行えておらず、地域との交流の機会が限られていたことが要因として挙げられる。     | 今後は、地域の関係機関や社会資源とのつながりを意識した取り組みを少しずつ取り入れ、児童が地域と関わる機会を広げていく。<br>また、地域行事や他事業所との交流、情報交換の機会を活用し、事業所外との連携を深めることで、支援の幅を広げるとともに、地域に開かれた事業所運営を目指していく。   |
| 3 | ご利用者様のポジティブなご意見は多く寄せられているが一方で不満の声も0ではない。   | ご利用者様からは多くのポジティブなご意見をいただいている一方で、支援内容や伝え方、期待とのずれなどにより、少数ながら不満の声が生じていると考えている。<br>個々の感じ方やニーズが異なる中で、十分に汲み取りきれなかった点や説明が行き届かなかった部分が要因の一つとして挙げられる。            | 止め、内容を整理・共有し、支援や対応の改善につなげていく。<br>また、日頃からお利用者様とのコミュニケーションを丁寧に行い、思いや要望を早い段階で把握することで、認識のずれを減らし、より安心して利用していただけの関係性の構築を目指していく。   |